



2025年 5月29日
第197号

JR 東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横浜大空襲 横浜が燃えつきた日 1945.5.29

1945年5月29日午前9時過ぎ、年初から数えて17回目の横浜市への空襲はそれまでよりもはるかに大規模な絨毯爆撃が行われ、日本軍航空部隊の応戦むなしく、木造家屋密集地帯を狙った新型焼夷弾による爆撃により、横浜市街は激しく燃え上がり、関東大震災から20年余りで復興した横浜市街は、再び灰燼に帰すことになりました。

- 米軍戦力：B-29 戦略爆撃機スーパーフォートレス 517機
P-51 戦闘機マスタング 101機
- 投下された爆弾：M69 焼夷弾 438576個（重量換算で約2570トン）
- 民間人死者：公式発表では3650人（実際には1万人を超えるとも言われる）
- 焼失面積：17.8平方キロメートル（中心市街地の34%）
- 罹災者数：公式発表では311218人（全市民の32%）

戦後80年になり、5月29日横浜大空襲を今に伝えるものは少なくなってきました。焼夷弾に焼かれ、多くの人が折り重なって亡くなったとされる現在の京浜急行線黄金町駅付近を歩くと、駅近くには（黄金）地蔵尊、南側の大通り公園、地下鉄阪東橋駅付近において、1992年に平和祈念碑が建立されています。また黄金町駅北側の寺院に空襲の爪痕をみることができます。



大通り公園 平和祈念碑

1992年に建立された碑。内部が回廊となっており、犠牲になった方々の氏名が刻まれている。碑は地球の上に平和の文字を配してデザインされている



（黄金）地蔵尊

黄金町駅近くに設置された地蔵。空襲被害者の慰霊として設置されたとされる。
（※現在工事のためか撤去）



砕けた石碑

道路から見える普門院の石碑。爆風で砕けたとみられ節理のような柱状になっている。付近の寺院には割れた石柱や仏像などが見られる。

無差別爆撃 世界初の実行は日本軍

世界初の無差別爆撃は、ドイツ軍によるスペインでの「ゲルニカ爆撃」（1937年4月26日）と教わった方も多いと思いますが、実はそれよりも前の1931年10月8日、満州事変の最中、中国、現在の遼寧省・錦州に対して日本軍（関東軍）が独断で行った錦州爆撃が、世界で初の無差別爆撃です。僅か75発の爆弾の投下でしたが、市民15名が死亡しました。これをきっかけに、国際社会での日本の立場が一気に悪化しました。これが巡り巡って自国に返ってきたのです。これらの反省から、日本国憲法において”政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意”したのです。

戦争について被害も、加害も、語り継いでいこう